

令和5年度 山口県立農業大学校 学校評価シート

〔重点目標〕

- ①担い手の確保・育成
- ③土地利用学科の運営
- ⑤畜産学科学修の充実
- ⑦危機管理の徹底

- ②新規就農・就業者の確保・育成（農業・林業）
- ④園芸学科学修の充実
- ⑥効率的な業務運営体制の構築

重点目標	達成目標・評価指標	中間評価・達成見込み 達成度(1-10)	外部評価と次年度改善策 ※詳細は別紙
■学生教育 担い手の確保・育成	●山口農高と農大等の協定締結等 ●進路確定（2年生）100%	○6/30山口農高連携協定締結 ○進路決定 25人/25人 100%（見込み）	10 ①農業基本法を学ぶ必要。 ・農業政策概論の講義等での充実を検討します。
■社会人研修 新規就農・就業者の確保・育成（農業・林業）	◎農業 ●定員確保（短期入門研修：40名・作目基礎：70名） ●進路確保（担い手養成研修生進路確保100%） ◎林業 ●確実な研修生育成（修了率100%）	○短期入門研修 48名（40名） ○作目基礎研修 66名（70名） ○担い手養成研修生 10名就農/10名（100%） ○3研修 31名/32名（97%）	10 ②農業の基礎を教えることが重要。 ・今年度、1年の共通科目として農業基礎（栽培、畜産、土壌、肥料）を新設し、研究員等も担当する中、内容充実を図っています。
■土地利用学科の運営	●学科運営（資材管理、圃場管理、機械管理等）の手順書作成（3種類程度） ●トヨタ生産方式学修の実施（3回/年）	○手順書3種類作成（見込み） ○トヨタ生産方式学修 3回実施（5/12・6/1・11/10）	10 ③危機管理を学修する必要。 ・GAP演習等を通じ、危機管理能力を高められる講義演習を強化していきます。
■園芸学科学修の充実 野菜・花き・果樹の各種技術実証の学修	●技術実証の学修：8件（スマート技術、オリジナル品種等の技術実証） ●農薬残留分析（2検体/年：トマト・ブドウ） ●食品安全事故ゼロ	○技術実証学修 8件実施 ○農薬残留分析 2検体実施 ○事故ゼロ継続中	10 ④授業で市場関係者、量販店バイヤーによる講義があると良い。 ・流通概論の講義での講師派遣を拡充し、対人対応力の強化を図っていきます。
■畜産学科学修の充実 酪農・肉用牛経営の安定を図る技術実証の学修	●2年生人工授精実施：1頭/1人以上実践 ●1年生人工授精師免許取得：1年生8名 ●スマート畜産の実践による個体管理 空胎日数：酪農 80日以内（37%→50%） 肉用牛60日以内（30%→50%）	○酪農 2.3頭/人 肉用牛 4.0頭/人 ○1年生5名合格 ○酪農 34% 2頭/6頭 肉用牛 50% 3頭/6頭	10
■効率的な業務運営体制の構築	●課、グループ、室単位に業務平準化等による時間外勤務縮減や年休取得推進 ●年休取得5日未満ゼロ（R4:23%未満）	○各単位で業務平準化への取組を実施 ○年休5日未満 17.2%	8
■危機管理の徹底	●所属職員連絡システムの周知による危機管理の徹底 新型コロナウイルス感染症等への対応の徹底	○手洗い、マスク着用等の励行・徹底 蔓延のため臨時休業期間のべ6日	10